

令和元年11月15日
(2019年)

保護者の皆様へ

吹田市立千里第三小学校
校長 大西 智子

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

●国語

1. 本校の児童の平均正答率は全国値を上回る良好な結果であった。
2. すべての項目（設問）で平均正答率は上回り、相当数の児童が出題された学習内容を身につけていると考えられる。
3. 学習指導要領の、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4つの領域別でも、平均正答率は全て全国値を上回っていた。また、評価の観点別、選択式や短答式といった問題形式別の分類でも、いずれも全国値を上回った。
4. 無回答率は、「報告する文章で図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題」で平均無回答率を上回り、「漢字を正しく書く問題の3問中1問」と「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、読み取ったことを文章にする問題」が、全国値をやや上回った。その他の設問はすべて全国値を下回り、積極的に課題に取り組む姿勢がみられる。

☆国語科における今後の指導改善点について

比較的正答率が低かったのは、文章で記述する問題でした。条件を設定して文章を書く力を伸ばしていく必要があります。また、漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が低かったので、特に同音異義語などを正しく使えるように指導していきます。

●算数

1. すべての項目（設問）で平均正答率は全国値を全て上回り、良好な結果であった。
2. 「数と計算」「量と測定」「数量関係」の各領域では全国値と比べ上回っていた。「図形」の領域のみは全国値とほぼ同じという結果になった。
3. 「数と計算」では、グラフの数値から読み取る、計算で数値を求める、式が立てられている計算に具体的な数字を入れて説明する問題において良好であった。
4. 「量と測定」では、全国値を大きく上回っていた。
5. 「図形」では、図形の性質についてはおおむね理解できている結果となった。しかし、マス目の数を数えていない、正解の選択肢をすべて選べていないなどの誤答も少なからずあった。
6. 「数量関係」では、ほとんどの問題で良好な結果であった。ただ、除法の式の意味理解に関する

る問題においては、全国値を上回ってはいたが、正答率が低かった。

☆算数科における今後の指導改善点について

算数の結果においては、各領域の問題でも記述形式の問題はやや平均正答率が低かったです。また、全国値で式の意味理解や計算の求め方を説明する問題に課題があるのと同様に、本校においてもこれらの問題に課題がありました。

誤答をみると、提示されたキーワードを使いこなせず、具体例を例示するだけで結論付けまでに到達できない回答が多い傾向にありました。

対策として、本校では「主体的・対話的で深い学び」を算数科において研究テーマに取り上げています。来年度も引き続き、知識・技能の習得だけでなく、なぜ結果がそうなるのか、過程を考えさせる指導を行います。また、子ども達が主体的にやりたいと思う授業の展開を考え、対話をしていく中で、考えが深まっていく指導を行うことも考えています。

また、線分図などの図を利用して、立式させるなど、式の意味を視覚的に分かりやすくさせたり、単位量当たりの計算にも役立てる指導を行っていきます。

2. 児童アンケートに関する調査の傾向

※質問調査の中から全国値と比較して特徴のある設問について説明します。

【基本的な生活習慣・学習習慣等】

1. 「朝食を毎日食べていますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均をやや上回った。
2. 「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」という設問は肯定的な回答が全国平均を下回り「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」では、肯定的な回答が全国値をやや下回った。
3. 「学校の授業時間以外に、普段から勉強をしますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均より上回っていたが、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では全国平均を下回った。
4. 「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均よりもやや上回っていた。
5. 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均を下回った。

【自己肯定感】

1. 「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均よりも上回った。「将来の夢や目標を持っていますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均をやや下回った。

【学校生活・授業】

1. 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問では、肯定的な回答が全国平均をやや上回っていた。
2. 「国語の授業の内容はよくわかりますか」という設問では肯定的な回答が全国平均を上回りました。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」という設問では肯定的な回答が全国平均をやや上回った。
3. 「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか」という設問では肯定的な回答が全国平均をやや下回った。
4. 「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」という設問では肯定的な回答が全国平均を上回った。
5. 「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」

という設問では肯定的な回答が全国平均を下回った。

6. 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という設問では肯定的な回答が全国平均をやや下回った。

7. 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」という設問では肯定的な回答が全国平均を上回りました。

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という設問では肯定的な回答が全国平均をやや上回った。

8. 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」という設問では肯定的な回答が全国平均を下回った。

☆今後の取り組み

〔規則正しい生活習慣〕

朝食を毎日食べている児童は全国平均よりも高いですが、同じ時刻に寝たり起きたりする児童が全国平均を下回る結果となりました。これは、通塾など習い事の有無が関連していると思われる。今後も、基本的な生活習慣を心がけて、元気に活動できるように、ご家庭と連携していきたいと考えています。

〔家庭生活の様子〕

学習塾などでの勉強時間も含めた家庭学習時間が全国平均よりも大きく上回っていることが、学力調査の好成績につながっていると推察できます。ただ、読書が好きな児童の割合は全国平均より上回っているものの、実際の読書の時間は全国平均を下回っています。これは家庭学習時間の1日に占める割合が大きく、十分な読書時間を確保できていないことが伺えます。

また、新聞を読む児童の割合は全国平均をやや上回っており、実際に社会の授業などで時事的な話題を取り上げると、教師から児童に対する一方的な伝達にならず、双方向から話題が広がるが多々あります。テレビやインターネットからの情報取得も多く、世の中の出来事に関する関心の高さが伺えます。併せてICTなどに関する関心の高さも全国平均を上回っています。調べ学習の際、利用に際してのマナーの指導は勿論のこと、ワード・エクセル・パワーポイントなども駆使しながら自分の伝えたいことを伝えるスキルも身に着けられるよう取り組んでいます。

地域行事の参加率が低く、また外国に対する関心の低さも見られました。地域行事の参加率は通塾もある程度関連があるように推察されます。外国に対する関心については、2020年度より、教科名が「外国語活動」から「外国語」と名称が変わり、年間授業時数は現在の50時間から70時間に増加します。小学校での学びが中学校での学習につながるよう、授業改善を進めていきたいと考えています。

〔自己肯定感〕

人の役に立つ人間になりたいと肯定的に回答する児童の割合は全国平均を上回っているものの、将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答する児童の割合は全国平均を下回っています。ペア交流で一緒に遊ぶ異学年交流や委員会活動などを通して、達成感や自己肯定感を高めていく指導を進めたり、日頃の授業や出前授業などを通して多種多様な職業を知るきっかけを作ったりする中で、自分の夢や目標やそのきっかけをつかんでほしいと願っています。

〔学校生活・授業〕

いじめはどんな場合でもいけないことだと肯定的に回答する児童が昨年度と同様、全国平均を上回りました。この結果は、いじめ予防の授業を行う中で、いじめをなくすことを真剣に一人ひとりが考えてきた成果だと推測されます。

国語・算数に共通していることですが、「勉強が好きか」、「学習したことを生活の中で活用できないか考えるか」、「授業の内容を将来社会に役立つと考えるか」といった項目で肯定的な回答をする児童が全国平均に比べて下回りました。文部科学省は学習の意義や大切さを理解させることと、学習意欲を高めるために自ら学習課題を見つけ、解決する力をつけることを示しています。本校でも学習することの大切さを伝えて児童自らが主体的に授業に参加できるように指導していきたいと考えています。また、4・5年生の算数の少人数習熟度別授業でも、引き続き授業改善を進めていきたいと考えています。

道徳では、今年度から昨年度より教科化され、学校全体として研究授業や研修などに積極的に取り組んでいるところです。自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動を通して、多角的・多面的なものの見方ができるよう取り組んでいきたいと思います。

今後とも、子どもたちの自律と幅広い学習の機会をつくるために、ご協力をお願いします。